



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言: 歯学教育のパラダイム チェンジに対応して

歯学部長 宮崎 隆

本年は、政治や経済が激動するなか、昨年度に引き続き歯科界も揺れ動き、大学における歯学教育の現場では対応に追われ慌しい一年でした。歯科医療を取り巻く環境が変わりつつあるなかで、日本歯科医師会は、歯科医療の真の意義を再考するために、広く食や健康にかかわる分野、医療、経済、文化、ジャーナリズムなど多方面の有識者によって構成する「生きがいを支える国民歯科会議」(議長: 独立行政法人国立長寿医療研究センター大島伸一総長)を平成21年に設置し、国民の視点からこれからの歯科医療のあり方について協議を進めてきました。先日、以下の通りにその提言がまとまりました。



1) 歯の治療から脱却して食べる幸せを目指すという意味を、はっきり打ち出す歯科医療に転換して欲しい、2) 歯周病と虫歯の治療だけでなく、守備範囲を口腔全体に広げ、咀嚼・嚥下等の口腔機能まで含めて考えて欲しい、3) 診察室で終わる医療ではだめで、寝たきりでものが食べられない高齢者の対応を含めて診察室から外に出て欲しいという非常に大きなパラダイムチェンジが提言されています。これらは、まさしく本歯学部において、この10年間教育改革に取り組み、新しいカリキュラムを導入し、昨年度コンピテンシーを制定した内容です。

文部科学省は、平成21年の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第一次報告」に基づき、各大学に「歯科医師として必要な臨床能力の確保」を求めています。本歯学部においては、今年3月に海外の歯学教育専門家を外部評価者として招聘し、5年次の臨床実習終了時学生に対して、本学独自の総合評価としてiOSCAを成功裏に実施しました。引き続き、新5年生に対して、臨床実習の内容等を整備し、教育目標と評価方法を明確にして、新しい考え方に基づいた診療参加型臨床実習を推進しています。

本学の特徴であるチーム医療については、医学部附属病院の歯科外来や、口腔ケアセンターを利用した附属病院病棟での臨床実習枠を増やしました。また

全学で推進している学部連携教育が、初年時から臨床実習の5学年まで進み、今年4学部連携の病棟臨床実習の大規模トライアルが実施されています。次年度からは必修になりますが、本実習は、社会が求めている患者中心のチーム医療に参画できる歯科医師教育にきわめて重要な位置づけにあります。

新しい教育には教員の負担増が避けられませんが、コンピテンシーに明記した資質の高い歯科医療人を育てていくことが本歯学部の使命です。本年賜りました各教員のお力添えに篤く感謝申し上げますと共に、今後も力を合わせて教育改革にご尽力を宜しく申し上げます。

昭和歯学会が開催されました

昭和歯学会常任理事 中村雅典

12月4日土曜日に第30回昭和歯学会例会が昭和大学歯科病院第二臨床講堂で開催されました。今回は特別講演2題と一般講演26題でした。

特別講演は九州大学大学院歯学研究院口腔常態制御学口腔機能解析学分野の二ノ宮裕三教授による「味覚の受容機構研究の新たな展開—味覚健康科学—」と本年の7月から半年間、交流校である米国の南カリフォルニア大学から招聘した口腔内科学のクラーク教授による「Autonomous virtual patient education project: A progress report」というタイトルでご講演をいただきました。二ノ宮先生のご講演内容である味覚の科学は歯科領域によって非常に重要な分野であり、先生のご講演を参加者は熱心に聴講していました。クラーク先生はコンピュータを用いた virtual patient による教育システム開発のパイオニアであり、このシステムの日本での応用について現在本学で精力的にご研究されています。本講演ではこれまでの経過について詳細にお話しいただきました。

一般講演では多くの教員、大学院生や研究生による基礎歯学から臨床歯学までの広範囲にわたる発表があり、各演題では活発な質疑応答がなされました。



昭和大学上條奨学賞授与式が執り行 われました

歯学部長 宮崎 隆

去る11月16日(火)午後4時から1号館6階会議室において、平成22年度昭和大学上條奨学賞授与式が執り行われました。上條奨学賞は、本学の学祖上條秀介学長の還暦記念の折りに同学長から寄附された上條奨学基金により職員を表彰するもので、学生を対象にした上條賞とともに、本学最高の表彰制度であります。

今年度は研究業績(学術上有益な研究業績を挙げた者に対する表彰)として、医学部の市川講師、歯学部の山田講師、薬学部の平井准教授、保健医療学部の山口教授が、教育功績(教育実践上の功績を挙げた者に対する表彰)として、医学部の井廻教授、歯学部の井上(美)教授、薬学部の中村教授、富士吉田教育部の倉田教授が表彰されました。

受賞式では、片桐学長が挨拶され、文科省関係の会議でも各大学が教員の教育業績をきちんと評価するように指導されているが、本学は先陣を切って昨年度から上條奨学資金規程に教育功績を条文化したとお話されました。引き続き学長から受賞者お一人ずつに表彰状と楯、ならびに副賞が手渡されました。小口理事長から、受賞された先生方が今後益々研究と教育にご活躍することを期待すると祝辞があり、閉会しました。



上條奨学賞(教育功績)を受賞して

小児成育歯科学教室 井上 美津子

この度、平成22年度上條奨学賞(教育功績)の授与を受けました。本学の創設者でもある上條秀介先生ゆかりの栄誉ある賞を受賞いたしましたことを大変光栄に思うとともに、また身の引き締まる思いでもあります。本賞は、昨年より研究業績ばかりでなく教育功績に対しても贈られることになり、昨年古屋良一先生に続いて栄誉を賜りました。私は昨年より教育委員

長の任についたことで、この賞の候補にいただいたものと思いますが、課題名は「臨床能力を育成する歯学教育の構築の支援」でした。本学では、2003年に新カリキュラムが導入され、PBL、統合講義など基礎から始まり、徐々に臨床へとカリキュラムの改革が進められてまいりました。最近では、学生の臨床能力の育成に力が注がれており、昨年度は「昭和大学歯学部学生が卒業時に有している臨床能力(コンピテンシー)」が明文化され、それに沿った形で5年生の臨床実習終了時OSCEが初めて実施されました。文科省からの要請もあり、さらなる診療参加型の臨床実習が求められている現状です。微力ではございますが、基礎・臨床のすべての先生方のご協力をいただきながら、臨床能力を育成する歯学教育の構築に尽力する所存です。今後ともよろしく願いいたします。



上條奨学賞(研究業績)を受賞して

口腔生化学教室 山田 篤

このたびは上條奨学賞(研究業績)をいただき、とても光栄に存じます。上條奨学資金委員会の先生方に心より感謝申し上げます。私が昭和大学歯学部助手として採用されてからもうすぐ6年が経とうとしております。採用当初、歯学部出身でない私は歯学部のシステムをわからないまま研究・教育に携わることとなり、とても不甲斐ないものだったと思います。私自身の研究の経験を、歯学の方でどのように生かしていけばよいか悩んだ時期もありました。そんな時、いつも私の心を支えてくれたのは口腔生化学教室の先生方ならびにスタッフ、共に研究し勉強してきた大学院生・学部生の方々でした。本賞受賞の研究テーマとなりました「遺伝子改変動物を用いた生体機能の解析」を硬組織分野で展開できる機会を持つことができましたのは、本学歯学部で研究させていただいたからと心から感謝しております。研究に関しましても、教育に関しましてもまだまだ至らない所が多々あり、このような名誉ある賞をいただいて良いものかと、正直とても恐縮しております。私は、本賞受賞を今後の本学における研究・教育に携わっていく際の励みとし、日々努力し、頑張っ参りたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。



チーム医療実習指導者養成ワークショップに参加しました

歯内治療科 山田 嘉重

去る9月4日土曜日に昭和大学学部連携病棟実習に対するチーム医療実習指導者養成ワークショップが開催され参加いたしました。朝10時から始まり夕方6時近くまで続く内容の濃いプログラムで、歯学部からも多くの先生方が参加されていました。最初に実行委員の諸先生方から学部連携病棟実習について、7月に実際に行った実習風景のビデオをまじえて説明がありました。私も全く初めてのことでどうしたものやらと正直心配していたのですが、先生方からの説明を聞き学部連携病棟実習について少しずつ分かってきました。片桐学長からも今後の将来を担う医療人の育成に学部連携病棟実習が大切であることなど熱いメッセージをいただきました。その後、班ごとに分かれ、さまざまな実習項目をどのような順序で行うと最も効果的かを考えて、タイムテーブル作りを行いました。ワークショップの最後には各班毎に自分たちが作成したタイムテーブルを発表し、発表に対しても非常に熱心で活発な討議が行われ、開催当初の静けさから一変して熱気のあるワークショップとなりました。

日本補綴歯科学会東京支部会が開催されました

歯科補綴学教室 樋口 大輔

歯科補綴学教室の主管で、東京支部第14回学術大会(10月16日、17日、上條講堂)を開催致しました。今回は会期を2日間とし、さらに東京都歯科医師会を始めとした近隣の4歯科医師会のご後援を頂いたところ、400名を超える先生方にご参加参加頂き、非常に盛況となりました。内容も盛り沢山で、一般講演20題、専門医ケースプレゼンテーション4題の他、現在、当教室に滞在中の南カリフォルニア大学(USC) Glenn Clark 教授と Roseann Mulligan 教授による2題の講演を同時通訳付きにて行いました。

また、国際オンラインコース成果発表会では、発表者の一人がロスアンゼルスより中継にて発表を行いました(写真)。これは初めての試みでしたが、医局員の協力により、予定通り無事行うことが出来ました。



その他、補綴学会東京支部の武田孝之先生にはインプラント補綴による治療計画について、歯科理

工学教室の宮崎教授と柏田聡明先生には現在臨床応用が広がりつつあるジルコニアおよびセラミックスに対する接着についてご講演を頂きました。さらに水谷鉦先生の市民フォーラムには近隣の市民が多く参加し、質疑も活発に行われました。

16日の夜には昭和大学病院にあるタワーレストラン昭和にて懇親会を開催しました。他大学の先生からは料理だけではなく景色も素晴らしいとお褒めの言葉を頂きました。

今回、成功裏に学会を執り行うことができたのは、AVセンターを始めとして昭和大学関係者のお力添えのおかげです。この場をお借りして御礼申し上げます。

平成22年度 永年勤続者表彰式 開催される

歯学部長 宮崎 隆



去る11月9日(火)に上條講堂において、学校法人昭和大学の平成22年度永年勤続者表彰式が執り行われました。グリークラブの校歌斉唱に引き続き、小口勝司理事長から、35年、25年、15年の永年勤続者がそれぞれの立場から大学の発展に長年貢献していただいたことに対する感謝とともに、今後も役員と一緒に昭和大学が医療系総合大学として建学の精神をもとに益々発展できるように力添えをいただきたいと挨拶がありました。

引き続き理事長から各勤続年代表者に、表彰状と記念品が授与されました。記念撮影のあと、タワーレストラン昭和に会場を移し、懇親会が開催されました。田口人事担当理事から、35年、25年、15年前の世相や当時の大学の状況を紹介した挨拶があり、片桐学長の乾杯のあと、楽しいひと時を過ごしました。

歯学部関係の表彰者は以下の通りです。(敬称略) 今後も益々お元気でご活躍されますようお願い申し上げます。

35年:鈴木広志(フォトセンター)

25年:尾関雅彦(歯科補綴学)、北川 昇(高齢者歯科学)、五島衣子(歯科麻酔科)、永田恭子(小児生育歯科学)

15年:井上 紳(総合内科)、馬淵あずさ(歯科補綴学)、宮崎裕美(教務部教務課)、小田奈央(昭和大学病院歯科)、円谷英子(藤が丘病院歯科)、高橋由佳(歯科病院図書室)、大田原泰代(歯科病院栄養科)

8大学連携事業海外視察に参加しました

小児成育歯科学教室 島田 幸恵

平成22年10月21日～28日に、8大学戦略的
大学連携支援事業の一環で、Ohio州ClevelandのCase
Western Reserve UniversityとMassachusetts州の
Boston Universityの2校に、福岡歯科大学・大星博明
教授、北海道医療大学・安彦善裕教授、鶴見大学・小
島潤教授、そして私の4名のグループで視察に行きま
した。

Case Western Reserve Universityでは、Goldberg学
部長が9年前にカリキュラム改革をし、その結果研究
業績も増え1年間に200万ドル増収したとのこと。1
年生は歯科治療と臓器との関係のPBLと講義を
半々にした授業を中心に、小学校を巡回し検診・シー
ラント処置を早期に臨床経験をするものや、医師、看
護師、歯科医師のチームで管理している1家族を1学
生に担当し、小児から高齢者までの全身管理を含め
た治療を2年生は予防を主体に、3、4年生には予防
から美容歯科までの治療ができるようにしていくとい
うものでした。

Boston University歯学部Oral Medicine科のChou
教授から口腔診断の重要性について説明があり、補
綴科のKamachi准教授は、アメリカの予防の概念には
口腔ガンの検査が含まれ、通常の歯科治療を行う上
でも毎回治療前に頬粘膜、舌、口腔前庭、顎下リンパ
節などの診察を必ず行い、異常があったら生検の依
頼を行うことが一般歯科医としての責務であると述べ
ました。我々も日常臨床でも見習うべき点が多々あり
有意義な視察でした。このような貴重な機会を与えて
いただき大変ありがとうございました。



(左から)Comprehensive CareのLisa A. Lang
科長、小島教授、安彦教授、大星教授、島田、
Goldberg学部長

歯学研究科I期入試が行われました

歯学研究科運営委員会委員長 上條 竜太郎

平成23年度大学院歯学研究科入学試験(第1期)
が、12月4日(土)に実施されました。志願者数は5名
でした。試験は英語(一般英語・科学英語)と専攻科目
について実施され、5名全員が合格しました。今回は

合格者5名全員が本学歯学部出身者でした。第2期
入学試験は2月19日(出願締切は2月10日)、入学
式は4月2日(土)に執り行われます。

受賞

広報委員長 井上 富雄

●佐藤裕二(高齢者歯科学教室 教授)

特定非営利活動法
人 日本咀嚼学会 第
20回記念大会 優秀
口演賞の授与が10月
2日に行われました。
演題名「8020達成者
の光と陰 - 優位性と
問題点」



診療統計(平成22年11月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日 平均	前年1日 平均
外来患者	17,677	768.6	720.4	742.4
入院患者	430	14.3	12.9	14.9

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 1月15日、16日:センター試験
- 1月29日: 歯学部I期入試・
センター試験利用入試(I期)
- 2月2日: CBT
- 2月5日、6日: 第104回 歯科医師国家試験
- 2月19日: 歯学研究科II期入試
- 2月20日: OSCE
- 2月27日: 歯学部II期入試・
センター試験利用入試(II期)

編集後記

口腔生化学教室 宮本 洋一

キャンパスがイルミネーションで飾られ、今年も残り
僅かとなったことをしみじみと感じます。この時期、皆
さまはいかがお過ごしでしょうか。私は、駄句のような
具合で、もはや諸々来年への先送りに対応するほか
なさそうです。

『一年の吹き溜まりかな年の暮れ』

最後になりましたが、年末のお忙しい中、原稿をお
寄せ下さいました皆さまに心より御礼申し上げます。